

松岡悦子名誉教授へのインタビュー

特集

「妊娠・出産」を物語る

—健康で楽しい人生とは?—



CONTENTS

【特集】松岡悦子名誉教授へのインタビュー
「妊娠・出産」を物語る
—健康で楽しい人生とは?— 2

Introduction to Master's Studies 大学院へようこそ
文学部 前田真砂美先生 6



【学生記者企画1】ゼミの風景	8
【学生記者企画2】こんな本屋さん知っていますか	10
部活・サークル紹介	15
佐保会各支部リレー便り なでしこ基金	16



本学の松岡悦子名誉教授が、第三十四回南方熊楠賞を受賞されました。医療機関での出産が一般化している昨今、女性の身体に寄り添った「妊娠・出産」について、民俗学・文化人類学の立場から長年研究をされています。女性にとって重要なライフイベントである妊娠・出産の多様なあり方を知り、選択肢を持つことは、自身の身体を大切にすることに繋がります。そんな教授のインタビューからは、現代社会において健康に楽しく生きるためのヒントが見えてきました。

(以下、敬称略)

◎ 受賞おめでとうございます。まずは受賞された感想を教えてください。まずは受賞された感想を教えてください。まずは受賞された感想を教えてください。

松岡 今まで受賞された方は有名な方ばかりで、もちろん賞の存在は知っていましたが、電話がかかってきた時は驚いて実感が湧きませんでした。この賞は私個人にとり、より、「妊娠・出産」というテーマが受賞したと考えています。今、日本をはじめ、東アジアが直面しているこのテーマについて、みんながもつと考え研究した方が良いという判断がされたのではないかと感じましたね。

◎ 先生がご自分の経験から「妊娠・出産」というテーマに取り組まれ、今日までずっと向き合い続けてこられた原動力は何ですか？

松岡 社会学、文化人類学の分野で「妊娠・出産」を扱う人たちは、自身の妊娠・出産でひどい目にあつたか、あるいは良い出産を経験したかのどちらかが多いです。男性の場合は妻が経験したことが影響することもあります。辛い経験からくる怒りが心に残っていて、「これはおかしい」という気持ち、原動力としてあるみたいですね。他のテーマの場合はどうかわかりませんが、個人の中にあるマグマのようなものが原動力となっている人が多いのではないかと。

でしょうか。私の場合は最初から助産所で出産したので、嫌な経験をしたわけではありませぬ。でも、世間一般の常識を疑うことを学びました。

高木 それを知った時は結構びっくりしました。知識としてあまり知らなくて。

松岡 私は、いろんな本を読んだ結果、病院出産が一番安全な出産だとは思えなかった。最初の子は助産所、2番目3番目は自宅で産みました。

◎ 子どもを産むということについて、私を含め女子大学生にとっては我が事として関心のある話題だと思います。ですが、自分を含め、結婚や出産に対して後ろ向きな気持ちを持つ若い女性が増えている印象を持ちます。それについてどうお考えですか？

松岡 上の世代から出産の話が伝わっていないとは思いますが、それはすごく残念なこと、そういう機会が少ないのが現状です。今は病院での出産が一般的で、そこでの経験は「物語」として人に伝えなくなるようなことではないのかもしれないですね。家庭での出産であれば、家族の振る舞いなど、日常生活の中に出産する体験があるけど、病院では意思決定を主に医者が行いますよね。「自分はされるがままになっていた」

というような経験をして自分の出産を説明できない女性も多いです。出産について、お母さんから聞いた事はありませんか？ 医学的な観点から見ると、出産は「危険」という文脈で語られることが多いです。

高木 確かに、出産に対するイメージとして、「怖いな」と思います。

松岡 お母さんがどのように出産したかという話よりも、「医者」の救出物語のようなイメージになってしまつて、リスクや危険というイメージばかりが伝わつてしまつているのが現状なのかもしれません。出産は、もともとはみんな寄り集まつて行う通過儀礼のようなものでしたが、医学の中のできごとになり、女性の人生から切り離されてしまったのかもしれない。そのため、積極的に産みたいというよりは、危険だし、産んだら仕事に支障が出るかもしれないし...というようなネガティブなことばかりが思い浮かんでしまつたのです。

◎ 奈良女子大学の学生の中には、働き続けて社会で活躍したいという学生も多いと思います。そのようなライフスタイルと妊娠・出産の両立はやはり難しいことなのでしょうか？

松岡 確かに、出産したら産後の一定期間は休まなきゃいけないけど、なんというか、別に気にせず自分のやりたいことをすればいいと思います。ただ、そのためには周りの協力を得るための努力が必要で、自分一人での産後を乗り越えるのは難しいですね。文化人類学の文献を読むと、出産・子育ては地域の人びとや親族がお母さんをサポートする機会になっていきます。そういう助け合いの関係を次世代に伝えることは大切だと思うので、私と夫は時間が合



松岡悦子名誉教授へのインタビュー

「妊娠・出産」を物語る

—健康で楽しい人生とは？—

◎ 「出産」は経験した人にしか本当のところはわからないというイメージがあります。先生の研究を拝見して、様々な出産のかたちを知り、選択肢を増やして知識を持つための教育があればいいなと思いました。

松岡 今の時代は、深く自分で本を読んだりせずに、SNSで他の人が言っていることを、そのまま受け取ってしまうこともあるかもしれません。

高木 それに、SNSはネガティブな情報の方が目につくかもしれないです。

松岡 そうですね。でもやはり、SNSで言われていることと自分の感覚との間に違和感がある、そういう感覚はあるでしょうか？ 自分の感覚を中心に考えていけば、ここは譲りたくない、といった判断を自然に行っているのではないのでしょうか。何が正しいかは一概には言えませんが、食べ物一つとっても自分の価値観はありますよね。そういうのを重視するしかないと思います。その価値観を作るのは、経験が大きいです。色んな人と付き合ったり話を聞いたりする中で考えは作られていくでしょう。そのためには、学校と家との行き来だけじゃなくて、いろんな経験をすることが重要です。今の学生は非常に忙しいかもしれませんが...



松岡先生の著書



バングラデシュの村での調査

松岡 悦子先生 プロフィール

奈良女子大学名誉教授、博士（文学）。専門は文化人類学、ジェンダー論。

世界のさまざまな地域の妊娠・出産のあり方や助産師の活動について調査してきました。今、SDGsの目標の一つとして、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC：すべての人がヘルスケアにアクセスできること）が言われています。健康保険がヘルスケアの形（とくに妊娠・出産の形）をどう変えていくのかを、アジア、アフリカ、ヨーロッパで比較調査しています。

学生記者の声



松岡教授は、優しい中にも芯があるお人柄が印象的でした。教授の明るく豊かなお言葉を通して、妊娠・出産というテーマを、より自分事として考えてもらえるきっかけになる記事になれば嬉しいです。私自身、妊娠・出産への見方が変わっただけでなく、残りの大学生活をより有意義にハッピーなものにしたいと思いました。さらに、今後の人生や自分の価値観についても一度立ち止まって考えさせられるような貴重な機会となりました。

高木 理華子（たかぎりかこ）

大学院人間文化総合科学研究科 博士前期課程
人間科学専攻 教育学・人間学コース
出身校：愛知県立岡崎高等学校（愛知県）

育で中心でした。気をつけたことは、とにかく自分も子どもも健康であること、そのためどうすればよいかを気にしていました。今の学生の状況とは違いかもかもしれません。ですので、保育園選びの時は、外遊びさせてくれて、食材に気を使ってくれる、自分にとって重要なことを実践している所を選びたいと思いますね。

私の上の世代の話を知ると、当時は女性が子どもを産んでなおかつ大学に行くとはわがままという風潮が役所にまだある時代だから、役所へ子どもを連れて行って、「子どもを保育園に入れられないなら子どもをここに置いていきます！」ぐらいの迫力で迫らないとだめだった、言われました。

高木 保育園に限らず、要求ははっきり伝えないとダメですね。

松岡 そうかもかもしれません。私、そんなに

すること、出産のかたちも変わっていくのではないのでしょうか。

◎ 留学など海外に行くことを考えている学生も多いと思います。先生のご経験から、これはやっておいいた方がいいなどのアドバイスはありますか？

松岡 私が後悔しているのは、英語以外の言語を話せないことです。英語を話せるのは基本ですが、現地の言葉を話せなければどうしようもありません。通訳を使うのはハンデというか。言葉は若いうちにやっておくことが重要です。自分が行きたい国が決まっているならば、現地の言葉は学んでおくべきだと思います。

◎ 奈良女全体に大学院進学を後押しする雰囲気がありますが、自分自身、大学院に進学したことについて周囲から珍しがられたりすることがまだ多いです。先生の大学院時代のお話を教えてください。

松岡 学生時代に、当時付き合っていた今の夫が大学院に行くと言ったので、自分も行くかという感じで、将来研究者になることは全然考えていませんでした。一生続けられるような仕事をしたとは思っていませんでした。当時の国立大学の大学院は男性ばかりでしたが、すごく楽しかったです。周りから何か言われることはなかったですね。何か言われていたかもしれないが、耳に入っていないというか（笑）関係なかったですね。今と比べると、私たちの世代は就職などに苦労することもないラッキーな世代でした。私は早く子育てを始めたためにできなかったこともあったとは思いますが、研究との板挟みなどの葛藤なく、ほとんど子

人と協力して、出産を女性にやさしいものにしたと思っています。

◎ 学生に向けてメッセージをお願いします。

松岡 奈良女子大学は、時間がゆっくり流れています。それは、良い面もありますが、もう一歩踏み出した方がいいのではないのでしょうか。もっと自己主張する必要があると思います。大学生は考える時間があったて、図書館など様々な資源を使える恵まれた立場にあります。それを最大限に生かして、自分がハッピーに思えること、充実感を得られることをやるのが重要です。欧米では、若者が世界の問題を解決しよう、世界を良い方向に変えようと活動しています。日本の若者もぜひ世界の問題と向き合ってほしいですね。

◎ 様々な国、様々なかたちのお産を見てこられて、どのようなことを思われますか。

松岡 出産って本当に多様なかたちになり得るし、自宅出産に伴う危険もあれば、病院出産に伴う危険もあります。でも自宅で生まれる場合は、それほど「暴力的」ではないんですよ。病院ではお母さんが大変な思いをして、生まれてきた赤ちゃんが疲れ切って生まれてくることもあります。ただし、病院は瀕死の状態でも生まれてきて、救命処置をできる安心感があります。

一方、自宅出産の場合は穏やかに生まれてくることが多いです。そういう点から、病院での出産が必ずしも一番安全だとは考えなくなりました。赤ちゃんは本来、自分で出口を見つけて出てくるものであり、無理に取り出す必要はありません。死亡率は、病院までの交通手段があるかどうかや栄養状態、衛生面など様々な要因と関連しています。その辺が難しいけれど、社会全体の環境や教育が整備されれば、正常な出産の場合は医療の介入は必要ないと思います。もちろん、異常な出産の際には専門知識を持つ医療従事者が必要であり、早期の見極めと搬送が重要です。正常な場合は日常の空間の中で出産が可能です。そうはいっても、初めての出産のときは誰でも怖いと思うじゃないですか。そこに助産師の重要性があるわけで…助産師がそばにいてくれる、誰かが見守っていてくれるという安心感が出産の安全性にも影響します。

高木 では、自分の体を守るためにはどうすればいいのでしょうか。

松岡 不必要な処置を避けるためには、知識を持つことが重要です。自分にとって重要なことは譲らない姿勢が必要です。そう

◎ 今後の目標をお聞かせください。

松岡 孫と遊ぶのが楽しいです。娘と似ているところがあつたりして、面白いですね。あとは、出産をより良くするために時間を割きたいです。女性の体を守るために活動しているお母さんや助産師たちと一緒に活動したいと考えています。自宅出産をユネスコの無形文化遺産に登録したいという運動もあります。出産は女性の人生を変えるぐらい重要なことですし、次世代のスタートラインでもあります。色んな



柔らかな笑顔でインタビューにお答えされる松岡教授

Introduction to Master's Studies

言語文化学専攻 日本アジア言語文化学コース

大学院へ
ようこそ!



ます。そういったちよとした素材です。つとていられるのが一番楽しいです。大変なことは、その考えていることを文章にしなければいけないことです。特に短い時間で論文を出して成果を出すことが求められるので、十分な時間が取れない中で何とか形にしないと！とひねり出すように書くことがよくあります。

今の目標を教えてください。

近い将来の目標としては、本を一冊書きたいです。大学院生のときから程度表現に関わる研究を続けてきたので、一度それをまとめてみたいと思っています。程度表現はこれからずっと関心を持ってやっていたのですが、他にも興味

深いテーマがあり、それらも取り組みたいです。その前に、一旦これまでの研究をまとめないと次に進めないと思うので、本を書くことが今の目標です。



文学部
言語文化学専攻
日本アジア言語文化学コース
准教授

前田 真砂美

まえだ まさみ

先生の研究内容を 分かりやすく教えてください。

中国語の程度表現について研究しています。程度表現というと、日本語では「とても」「おいしい」「あまり」寒くない、などがありますが、中国語ではどのような表現を使って高い・低いなどの程度を表すのかを研究しています。また、中国語で程度を表すときに使う「很」や「非常」などの程度副詞はもとも程度を専用に表示する言葉ではなく、多くは動詞だったりそれ自体は程度性がなかったりするものでした。そういうものを使って程度を表そうとしているのですが、その裏にはどういうメカニズムがあるのかを考えています。もう一つは、中国語ではどのような場面で程度表現が求められるのか、どのようなときに程度を言いたいかを研究しています。例えば、日本語では、部屋に入つてすぐに「この部屋明るい」と言えますよね。でも中国語では、「この部屋明るい」と程度表現を使わずに「この部屋は明るい。あっちの部屋は暗い。」とか「この部屋は明るいから本を読むならこっちの部屋に来なさい。」というニュアンスになります。そこが日本語と異なる点です。つまり、程度表現を使うモチベーションが日本語と中国語で異なる可能性があります。どのようなときに程度表現を使いたいのか、それを使うことでどのように話を進めようとしているのか、ということを考えています。

中国語に 興味を持ったきっかけは何ですか。

きっかけは大学三回生のときのゼミです。

学びに繋がっていきます。これはなかなか得難い経験なので、大学院の魅力はそこにあると思います。

就職のことや女性でドクターまでいくことに不安になったり、周りから何か言われたりしたことはありませんか。

博士前期課程のときに就職も少し考えましたが、幸いなことに両親も大学院に行くことに反対ではなかったです。すんなり進学できました。確かに女性は少なかったですが、周りの先生方が非常に後押ししてくださいましたし、どうにかなるだろうと思って進みました。

奈良女子大学の 大学院の魅力をお教えてください。

一番の魅力は距離が近いことです。距離が近いというのは、教員と学生の距離が近いというのはもちろん、駅から近くキャンパスがコンパクトであることも重要なことだと思います。本学ですと学ばれてきた方にとっては当たり前かもしれませんが、教員の研究室と教室が同じフロアにあり、学生さんが行き来しているのは決して当たり前ではありません。大学によっては教室棟と研究棟が離れていて、先生に会いに行くためにはアポイントをとってはるる移動しなければならぬところも少なくないです。それと思うと、何か思いついたときにいきなり教員の部屋をノックできる環境は、とても魅力的だと思います。物理的な近さも結構大事だと思います。本学では歩いていけると池の周りや学術情報センター(附属図書館)の前などで色々な人とすれ違いますよね。そういうときに、今日来

もともと中国語を専攻語として勉強していたのですが、それまで中国語は私にとって学ぶ対象だったのが、ゼミに入ったことで問題点や疑問を見つけて自分で考える対象になりました。なぜこう言っているのか、なぜこれは間違いとされるのか、などを自分で仮説を立てて検証していく対象になりました。中国語に興味を持ったきっかけとしては、中国語を一回生のときから教えてくださっていた先生が文法研究専門の先生で、その方のゼミに入ったので、その出会いが大きいと思います。当時実は、大学四年間ひっそり中国語を勉強すれば良いのだと思っていました。そうではなく、中国語を学んでそれを使って自分の専門分野の勉強をしてください、ということでした。三回生になつて、歴史や経済、文学などのゼミに分かれてくださいと言われて、中国語がやりたかっただけなのにどうしよう！となり、語学ゼミが一番中国語の勉強になりそう！と思って入りました。結果的にそれが面白かったですね。

研究の楽しい点と 大変な点を教えてください。

楽しい点は、私が関心をもっている分野の言語研究は機材や現地調査をあまり必要としないので、どこでも何かを考えていられる点です。ふとした一文でも、なぜこう言っているのかと考えたり、街中の中国語の看板を見て、「あつ間違っているな、なんでダメなのかな」と考えたりしているな、とか、あのこ聞いてみようかな、といった自然な交流が生まれるコンパクトなキャンパスは魅力的だと思います。

最後に、大学院への進学を考えている方へ一言お願いします。

私の知る限り、大学院に進学して後悔している人に会ったことがありません。すぐに就職が決まらず、少し苦しい時期を過ごす人もいますが、それ以上に得るものが多いと思います。

学生記者の声



私自身、前田先生に中国語を教わっているのですが、取材では授業のときは少し違う、研究者としての顔を見ることができた気がしました。研究内容や研究の楽しい点を生き生きと話されていたのがとても印象的でした。また、大学院の魅力や奈良女の魅力を知り、改めて大学は素敵なおところだなと思いました。私も自分の興味を深めていき、学ぶことを楽しみたいと思います。

佐藤 星空(さとう せいら)

文学部1回生
出身校：山梨県立甲府第一高等学校(山梨県)



私たちに、大学院での学びが必要だ。

「文系で大学院に行つてどうするの？」

この言葉を耳にすると、自分の研究したいと思つていることが役に立たないと言われているようで不安になる。好きなことをやるべきか、早く社会に出るべきか、立ち止まつて考えてしまう。そんな時が、みなさんにもあるかもしれません。

そこで今回は、大学院で活躍されている榊島さんと指導教員の寺岡先生にお話を聞き、奈良女子大学の大学院の魅力や大学院進学の意味について一緒に考えていただきます。

——(内田)まず初めに、大学院へ進学したきっかけについて教えてください。

榊島 お茶が大好きで、高校時代から茶道を、台湾留学時に台湾茶を習っていました。知的好奇心が強い方なので、漠然と大学院進学への希望は学部卒業時からありましたが、働くことへの興味もあり、就職することを決めました。お茶文化の探究は趣味でも続けられると思つたんですよ。

大学院進学を決めたのは、自分の将来を考えた時に、ジェネラリストよりスペシャリストになりたいと思つたからです。大学事務の仕事をしていたので、院生さんとお会いすることも多く、自分の好きなことを突き詰めている姿が、とても羨ましかつたんですよ。専門を深めたいという気持ちがお茶と結びつき、お茶に関する研究がしたいと思いました。どんな本を読んでも、自分の知りたことが書かれていなかったら、仕事を辞めて大学院に行くことを決めました。

——お仕事を辞めて進学をするというのは、私にはとても大きな決断に思えるのですが、一歩を踏み出した理由などありますか？

榊島 結果にはこだわらなくて、実践する生もの財産ですよ。また、「研究者」の一員として見ても、大学院での勉強も同じだと思つています。研究のやり方を身に付けたことで、卒業しても研究を続けられるんじゃないですか。これは一生ものの財産ですよ。

また、「研究者」の一員として見ても、大学院に進学したからこそです。学術的バックグラウンドがないと任せてもらえない本の執筆や翻訳ができたのは、博士課程に進学したからこそ。博士進学がなければ今の私はないと思つています。

——文系で大学院に行くメリットはないと言われることが多いですが、寺岡先生が考える大学院進学の意味を教えてください。

寺岡 私は調査研究のなかで、地方自治体の職員や、企業、まちづくりNPOのリーダー的な方と会うことが多いですが、文系の方でも修士号を持つている人が多いように感じます。文系理系を問わず、大学院まで進んでしっかり研究したということ、自治体・企業・地域社会で高い信頼を得るといことは、結果的に相関しているように思います。

また、文系の大学院に行く意義としては、文化交流や国際交流の場での活躍範囲が広がることでしょうか。例えば榊島さんは、静岡県森町と台湾の交流の懸け橋になつています。榊島さんは藤江勝太郎という人物について研究しているのですが、彼は静岡県森町で烏龍茶をつくり、台湾でも茶業の近代化に非常に貢献した方です。榊島さんはその方の研究をしていることがきっかけで、森町と台湾の交流に携わつていられるんです。博士課程に在籍し、きちんと研究しているということが信頼となり、活躍の場が広がった良い例だと思います。



——そのものを人生の目的としているからだと思います。良い結果を出すことではなく、過程をどれだけ苦勞して進むかということにこだわりたいかたつたんです。思い通りではない結果が待つていたとしても、自分の納得のいく試行錯誤ができるところに行きたかつた。働しながら大学院に行つていられる人もいたけれど、私は納得いくまで全力で研究に取り組みたかつたので辞めようと思つきました。

——台湾茶の研究と聞いても、何学の研究領域になるのか分からないのですが、寺岡先生が指導教員ということは、社会学の領域になるのですか？

寺岡 いえ、榊島さんがやつていられること、私の専門領域はかなり違うんです。——どういう経緯で寺岡先生が指導教員になつたんですか？

榊島 修士の時は別の先生に指導していただいたのですが、その先生が定年を迎えられるというところで、困つていたので、そんな時寺岡先生が院生控室に来て、「行くところがないなら僕が受け入れるよ」つて言つてくださったんです。

よく言われることではあります。奈良女子の大学院の良さは、教員との距離の近さだと思います。一流の研究者が、2時間も3時間も、自分の研究や悩みを聞いて対話してくれるって、なかなかないことです。先生との対話からは、単なる知識だけではなく、空気感や思考法も学ばせていただいています。目に見えないけれど、自分の基礎となるものを得られるのは、教員との距離が近い奈良女子大学の良さだと思つています。

——奈良女子の大学院を選んだ理由や、奈良女子の大学院でよかったことを教えてください。

榊島 学部時代の居心地の良さが印象的で、大学院も奈良女子を選びました。

よく言われることではあります。奈良女子の大学院の良さは、教員との距離の近さだと思います。一流の研究者が、2時間も3時間も、自分の研究や悩みを聞いて対話してくれるって、なかなかないことです。先生との対話からは、単なる知識だけではなく、空気感や思考法も学ばせていただいています。目に見えないけれど、自分の基礎となるものを得られるのは、教員との距離が近い奈良女子大学の良さだと思つています。



台湾国際茶業博覧会で静岡県森町のブースにて通訳を務める榊島さん

——大学院を卒業した後のキャリアビジョンについて教えてください。

榊島 研究は続けたいと思つています。もし大学研究者ポストに就けなかつたとしても、最低限独立してやつていけるように事業を続けてきたので、仕事をしながら、お茶の研究

寺岡 榊島さんは修士の時から大変優秀で、学業に加えて台湾茶や中国語のレッスンなど、自分で事業を行つていました。事業の発展を視野にいれた時、研究上の所属があつた方が彼女の文化ビジネスにはプラスになるだろうと思つたことが、受け入れようとした理由のひとつです。もともと本学は大学院生を学際的(研究などがいくつもの学際)に受け入れる風土があるんですよ。調査の先生方も学際性に理解があり、社会学の教員を中心に指導体制をつくつて、文化を学際的に研究する彼女を受け入れることができました。

——素敵なエピソードですね……！本学には学際的な風土があること、初めて知りました。

寺岡 本学はいい意味で規模が小さいので、他学部の先生同士の交流が多いように感じています。そのネットワークのおかげで、自分の研究領域では分からないことでも、どの先生に聞けばいいのか学生に紹介することができます。また、学際的なことに理解のある先生が多いので、ゼミに2つ出たりする生徒もいます。普通は他の先生に聞きに行く、指導教員はあまりいい顔をしないものなんですけどね(笑)。私は、これからのドクターは学際性がなければいけないと思つているくらいです。

——大学院に進学してみてもよかったと感じていることを教えてください。

榊島 答えをただ知るだけではなく、研究のやり方を学べたことです。台湾でお茶の資格を取つた時に、「資格取得という結果も大事だけど、美味しいお茶が淹れられるようになったことが何よりの成果。これからの人生でずっとおいしいお茶が飲める。人生が豊かになつたね」と先生から言つていただいたのですが、

をしたいですね。事業は、お茶に役立つことや自分の人生観に役立つことしかしないと決めていきます。自分の事業を実践の場にしつつ、研究で理論を追求して、実践と理論のどちらにも偏らないお茶への探究を続けていきたいと思つています。

また、研究で社会と繋がりたいと思つています。台湾統治時代に活躍した総督府技師について、技師の出身地である静岡県森町の『遠州森の茶業史』に書いたことをきっかけに、森町で技師の顕彰の機運が高まり、森町と台湾の茶業交流が盛んになりつつあることが、研究をしていても嬉しかつたんです。こういった活動を今後も続けていきたいです。

——最後に読者のみなさんにメッセージをお願いします。

榊島 「やらない後悔より、やる後悔」という言葉がありますが、納得できるように必死にやつていたら、結果がどうであれ、やつて後悔することははないかと思つています。

社会人になつてから研究の場に戻ることは大変に思えるかもしれませんが、研究を進める際、ビジネスのノウハウが役立つことも多くあります。一度社会人経験を挟んでいるのは強みですよ。研究に興味がある人はぜひ、大学院進学をお勧めします。

寺岡 学部とは違つた、本格的な研究を少しでも体験してみたいと思つています。学部卒で就職する場合、3回生の後半から就活が気になり、本当に4年間勉強に集中したといえないのが今の日本の大学です。どの分野でも学問の基本を押さえた、就活の際に自信を持って言うためにも、修士課程に進学することをお勧めしますね。

学生記者の声



奈良女でよかったと心から思つて卒業したいと思ひ、学生記者を始めてから早4年。この記事が最後の仕事になりました。本学の良さとして学生と教員の距離が近いことがよく挙げられますが、今回はそれをダイレクトに伝えるために、学生と先生、学生記者の3人でお話をさせていただきました。本学で聞く「距離が近い」という言葉は、決して馴れ馴れしいという意味ではなく、課題に対して学生と先生と一緒に真摯に向き合っている関係性を指しているのだと思います。好きなことにまつくなく学生と一緒に考えてくださる先生方に囲まれ、奈良女でよかったと心から言える。そんな確信を得た貴重な時間でした。

内田 小雪(うちだ こゆき)
文学部言語文化学科 日本アジア言語文化学コース4回生 出身校:新潟県立新潟高等学校(新潟県)

寺岡伸悟先生のご紹介

奈良女子大学大学院人文科学系人文社会学領域教授、博士(文学)。専門は、観光社会学・なら学。



榊島彩波さんのご紹介

奈良女子大学の学部時代、東日本大震災後の日台関係について研究。卒業後、京都大学の事務として4年間勤務。転職後、台湾にある日本台湾交流協会に2年間勤務。2020年に帰国し、奈良女子大学の修士課程に入学。現在は、台湾茶のレッスンや通訳・翻訳業などをしながら、日本統治時代の台湾茶の歴史について研究。





day 3 絵本とコーヒーのパビリオン

奈良の路地裏にひっそりとたたずむ長屋のお店。店内には、懐かしの絵本から海外の絵本まで、様々な絵本が並べられています。コーヒーのほか、自家製のケーキ、サンドイッチ、カレーもあり、おしゃれな空間で美味しい物とともに、絵本を楽しめます。

営業時間 木～日曜・祝日 12:00～18:00 (17:30 L.O.)



day 4 ふうせんかずら

ならまちにある無人&シェア型書店。無人営業時は事前に登録したIDナンバーを使って、セルフ入店します。

カギ開放DAYやキッチン営業時はスタッフがおり、IDナンバー不要で入店可能です。棚主が選書した様々なジャンルのオススメ古本、新刊が並び、オリジナル雑貨や美味しいものも販売されています。

なぜ無人書店という発想に？

お店を構える前は、単発でイベントを主催していましたが、お客さんから「もっと奈良でいつでも本が楽しめる場所がほしい」というお声をいただいたことで、だんだんと心に火が灯り、本屋の経営を考えるようになったそうです。

しかし、既にお店をいくつか持っていて、店番をするのは絶対に不可能な状況。それでも本屋を経営するためにどうすればいいかを考えた結果、無人書店という発想が生まれました。

シェア型書店の素敵どころ

ふうせんかずらでは棚を貸し出し、棚主となった方が選書を行っています。棚の使い方は棚主さんにお任せしているので、棚ごとに個性が豊かです。

現在、60店舗出店中で、棚主の中には主婦の方もいらっしゃいます。作家さんが自分で書いた本を出店することもあり、本屋さんや本が好きな方々が活躍し、自己発信できる場所になっています。



読書席

本を買ったその時が一番読みたい気持ちのピークで、家に帰るとその気持ちも落ち着いて、本を隣においたまま積読になってしまうことはありませんか？「お求めいただいた本をすぐに愉しんでいただきたい」という思いから、ふうせんかずらでは読書席ができました。



day 5 本屋itoito

ならまち工房IIの2階にある小さな新刊書店。生活、芸術、人文の本と雑貨を扱っています。

営業時間 13時～16時、営業日は本屋itoitoのinstagramでご確認ください。

itoitoさんの本への思い

本は、はじめから読まなくてもいい。読み終えなくてもいい。たくさん読まなくてもいい。同じ本を何度読んでもいい。持っているだけでもいい。思い出すだけでもいい。読まなくてもいい。

でも、もし気になったら気になった時に開けるように、私たちは「本のある場所」を増やす活動をしています。本は本自身の人生を生きながら、きっとあなたと出会う瞬間を待っている。私たちはそう信じています。



本とめぐる5days



奈良女子大学の周辺には、本にまつわるお店がたくさんあります。散歩がてらにぶらっと行くのもよし。満を持して行くのもよし。自分なりの楽しみ方で本屋を巡ってみるのはいかがですか？



day 1 ほんの入り口

pp.12-13 特集記事

船橋商店街にある小さな本屋さん。本を楽しむ、本屋さんを楽しむことが気になっているあなたにおすすめしたいです。いろんな世界の入り口となるようなイベントが開催されており、本を通していろんな世界を楽しめる、本屋だけじゃなく本だけじゃない本屋さん。

営業時間 11時～18時、火曜日はだいたい休み。



day 2 実験する本屋 ヌリタシ

p.14 インタビュー記事

出版社に勤めるヌリ平さんと、グラフィックデザイナーのヌリ美さんが夫婦で活動する個人経営の本屋さん。

営業日 週末中心です。詳細は実験する本屋ヌリタシのinstagramでご確認ください。

過去の実験からピックアップしてご紹介

実験 その2



「勝手にきたまちマップ」

街の人たちとマップをつくってみたらどんな情報が集まるのか、マップを使った実験です。お店のことや風景のことを紙に書いて貼り付け、マップを作っていきます。

実験 その3



「あなたの俳句をわたしが待つ」

素人も玄人もごっちゃまぜにして、街のみんなが勝手に俳句をつくって、勝手に褒めあう俳句の会です。

実験 その5



「生き方素人の会」

「うわ、生き方下手やなあ〜」「人生1回目やなあ〜」と感じたご自身のとっておきのエピソードを意気揚々と披露しあう会です。

デザインを使ってみせていく

～デザインがあるからできる本屋づくり～

普段本を読まない人でも、興味もてるような見せ方をしてみたいという思いから、店内はポップを強調した棚作りなど、様々なデザインで溢れています。



ヌリタシ(塗り足し)は印刷の専門用語で、印刷物の断裁の際にズレが起きても大丈夫なように作っている余白の部分。いわば、「失敗を許容」してくれる存在。意味がないようなものでも意味があるかもしれないという思いが込められています。

ヌリタシって何？





イベントをする本屋さん!?

本屋がイベントを開催するってどういうこと?と思う人もいるのではないのでしょうか。ほんの入り口では、〇〇の入り口と称された、様々な世界の入り口となるようなイベントが開催されています。イベントの内容はバラエティに富んでいて、同じイベントでも参加者や時期によって、味わいが変わってくるのが魅力です。今回はほんの入り口の定番イベント2つを紹介します。

Event

作文の入り口

その場で出されたお題に沿って5分ほど文章を書いてみる。自分で書いた文章を読み上げる。他の参加者たちが感想を言う。

その日、その時にしか生まれない作文を味わえます。

画面の向こうの誰かではなく、目の前にいて読んでくれる人の存在は、じんわりと温かい時間を作り出します。



～欲しいのは、書いてみるきっかけと読んでくれる人の存在～

過去のイベント

セリフの入り口、手話学習の入り口、家から5分の入り口、詩歌の入り口、デザイン思考の入り口、ゲームが入り口、写真の入り口、可笑しさの入り口…等々まだまだあります。イベントの詳細はこちらから→ <https://hon-iriguchi.com/event/>

Interview

～なぜイベントを開催しているのですか?～

本ってね、仕入れる時の値段がすごく高いんですよ。だから、本だけ売っているのでは、おもしろくないです。それは、チェーン店や駅前のお店ですら同じです。そうなった時に、貸しギャラリーやイベントなどで運転資金を得る方法はないかと、オープン前にも少し考えていたんです。でも、実際に本屋を始めてイベントをやってみたら、すごく楽しかったんですよ。

それでやっていくうちに、レジで本を売って感じる喜びと、イベントをやっている時の喜びが、なんとなく似ていると思ったんです。実際、本を売るだけだと厳しすぎるので、イベントをやってお客さんに助けてもらう意味もあって続けています。

気になるものたち

書籍以外にも、書籍と関連のあるものなどが並べられています。ついつい手に取ってしまったり、立ち止まってしまうようなものが見つかるかもしれません。



文豪かるた



手紙小説「何者からかの手紙」「スプーンからの手紙」「乗客からの手紙」など



写ルンです

選べる

オリジナルブックカバー



ほんの入り口で文庫本または新書本を購入すると、ほんの入り口オリジナルのブックカバーをつけてもらえます。デザインは3種類から選べます。

Event

未読本の読書会

まだ読んだことのない本について語る会です。家にある積読本（orまだ読んだことのない本）を持参し、その本を手取るに至った経緯や、その本への思いを語り合います。参加者が持参した本の中には、十年もの積読本が

あることもあります。「まだ読んでいない」からこそ可能になる静かで熱い紹介は、同席した他の参加者の好奇心をそっと刺激してくれることでしょう。あるいは、あなたが読み始めるの誰かが読み始めるかもしれません。

ほんの入り口 に入ってみました!



奈良女子大学から徒歩10分の本屋さんです。今回は、店主である服部さんとのインタビューを交えながら、ほんの入り口のおすすめポイントを紹介します。



Interview

～どのようにして本を選んでいきますか?～

反射的に、「この本置きたい」という気持ちが先に出てくるんです。インターネットやSNSで本の情報をパッと見た時に、あ、これは仕入れたい、って思うんです。本を見た時に、自分の中で仕入れたい気持ちが一定のポイントを超えたら、仕入れるんだと思うんですよね。

でも、その基準は日々変わってきていて。例えば今なら、ハン・ガンさんがノーベル文学賞をとったじゃないですか。だから、多少韓国文学に対する評価が高くなっているような気がしています。皆さんも読みたいたいんじゃないかと思うんですね。

だけど、僕の中でひねくれたところもあって。例えばハン・ガンさんの新刊は、大手の書店が大量に注文しているから、注文しても、うちの店に入ってくるのは下手したら半年後くらいになる危険性がある。それよりも、ハン・ガンさんの本をたくさん翻訳している斎藤真理子さんの韓国文学についてのエッセイを仕入れています。これは、韓国文学を読んでいる人が、「次ににないかな」と思った時に、結構喜んでもらえるかも知れないと思って仕入れているんですけど。

だから、そういう一つ一つの理由は尋ねられたらもちろん言えるんだけど、仕入れたい!って思ってパッと手が伸びる、というところはあまり論理的ではなくて。なんというか、身体的というか直感的というか、そんな感じですよ。

店主の選んだオススメ本



店主のセレクトを楽しめるのは、個人経営の本屋さんならではの楽しみ方。どんな本が置いてあるかは、ぜひお店に足を運んで感じてみてください。

店主のイチオシ本はこちら!

『冬の本』

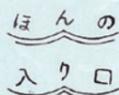
84人が「冬の本」をテーマにして書いたエッセイ。いくつものあざやかな冬のかたちは、贅沢な読書時間を生み出します。

一つのエッセイは見開きで終わるため、あまり本を読み慣れていない人でも読みやすく、まさに“ほん(を読むこと)の入り口”となり得るような本。



COLUMN

～店名の由来～



僕は、本や本屋が好きなんですけど、今、本が読まれなくなっているとか、本屋がつぶれているとか言われているじゃないですか。まったく個人的な理由として、僕は本屋が好きなので、おじいさん

になってあまり働かなくてよかった時に、日がな一日本屋に散歩に行く、そういう日本であってほしいなって思うんです。でも、「それは難しそうだな」って思って。本や本屋さんが、現状維持というか、なんとか踏みとどまってほしいという気持ちがあるの。

本読みプレイヤーがもっと増えてほしいという個人的な願いなんです。僕には本を読みたくないうる人を引っ張り込むほどの技術はないと思っているので、読まない人は仕方ない。「本、気に

なっているんですよ。」という人に、「こうやっていいですよ。」って感じのアドバイスなら、なんとかできるかも思っています。本を読みたいとか、本屋で遊び始めたい人の、入り口になればいいんじゃないかな、みたいな。入門とか、易しいとか、初心者とか、そういう近い言葉をいろいろ考えているうちに、「ほんの入り口」という言葉が思い浮かんで、始まったんです。



Club/Circle #NWU

ギターマンドリン部 メンバー数: 22人



活動内容
マンドリン・マンドラ・マンドロンチェロ・クラシックギター・コントラバスからなるオーケストラです!

♡お気に入り

#初心者大歓迎 #音楽好き #奈良女ギタマン

◎**普段の活動について教えてください!** 月・水・土曜日の週3回、主に12月の定期演奏会に向けてパート練習や合奏をしています。他にも他大学との合同演奏や老人ホーム、学園祭での演奏の機会もあります!

◎**楽器初心者でも参加できますか?** ギタマンの楽器・他の楽器の経験がなくても、一緒に練習していけば大丈夫です! 部員の9割は初心者から始めて演奏できるようになりました! また、楽器も大学のものであるのでご安心ください!

◎**どんな人におすすめですか?** 音楽が好きなお方、新しいことにチャレンジしたい方におすすめです! POPs、クラシック、マンドリンオリジナルなどいろいろなジャンルの曲を、マンドリンオーケストラで演奏してみませんか?



活動をもっと知りたい方はこちら!

硬式テニス部 メンバー数: 16人



活動内容
日々楽しみながら、初心者から経験者まで、みんなで活動しています!

♡お気に入り

#初心者大歓迎 #生涯スポーツ #仲の良さNo.1!

◎**初心者でも参加できますか?** もちろんです! 実際16人中9人が硬式テニス初心者です! 部活だとハードル高く感じるかもしれませんが、経験者やコーチが基礎から丁寧に教えるので、絶対に楽しく打てるようになります~!!

◎**ズバリ! 硬式テニス部の魅力について教えてください** なんととっても仲の良さが魅力です! 週に3回活動があるので必然と仲良くなります! 和やかな雰囲気を感じてほしいです。ごはんに行ったり、合宿でお泊りしたり、文化祭で屋台を出したり思い出がいっぱい作れます~!

◎**どんな人におすすめ?** テニスが好きな人、大学で新しいことを始めてみたい人、身体を動かしたい人、仲間が欲しい人、大学で青春がしたい人、イベント事が好きな人...少しでも当てはまったらおすすめですよ!!◎



@NWU_TENNIS_CLUB
活動をもっと知りたい方はこちら!

サッカー部 メンバー数: 18人(内マネ2人)



活動内容
初心者から経験者までみんなで仲良く週に2・3回、基礎練習からゲーム練習まで行っています。

♡お気に入り

#女子サッカー #サッカー部最高 #鹿と練習

◎**ズバリ! サッカー部の魅力を教えてください!** ズバリ! それは「コミュニティ」です! 同期だけでなく、先輩・後輩・卒業されたOGさん・先生方、地域の方との繋がりのある部活です。幅広い年齢層・出身地域の方と話す機会がたくさんあります!

◎**部員に聞いた! 私の好きなサッカー部!** 一番に挙げられるのは、やっぱり仲の良さです! 私自身も先輩方の雰囲気の良さで入部しました! 年に1回ある合宿を始めクリスマス会やみんなで手持ち花火など、日々のサッカー部が楽しくて毎日が素敵な思い出です!

◎**初心者でも参加できますか?** もちろんです! 部員のほとんどは大学からサッカーを始めました。(現に2回生は初心者のみです!) 中・高も文化部でしたという部員も多く在籍しています。ちょっと興味あると思う方はぜひ見に来てください!



活動をもっと知りたい方はこちら!

わかたけ会 メンバー数: 19人



活動内容
2か月に一度ほど、障がい者の方々と交流するサークルです。協力団体様の関係上、主に京都で活動します。

♡お気に入り

#楽しく交流 #未経験者大歓迎

◎**障がい者の方と接した経験がなくても参加できますか?** 大丈夫です! お世話という点では親御さんのお手伝いをするかもしれませんが、基本的に私たち自身が出し物等を通して楽しんでいる雰囲気を、お子さんたちにも楽しんでもらいたくことがメインです。

◎**わかたけ会に入って一番うれしかったことは?** 軽度発達障害の子もたちとショッピングをする活動をした時、「楽しかった」と笑顔で伝えてくれたことです。他にも、クイズやビンゴを楽しんでいた時は「企画した甲斐があったな」と嬉しく感じました。

◎**どんな人におすすめ?** 誰かに楽しんでもらったり、人とふれあったりするのが好きな人、色々なことに楽しんで取り組める人におすすめです! 障がいのある方との関わりは良い経験になるので、新しいことに挑戦してみたい人も大歓迎です。



活動をもっと知りたい方はこちら!

実験する本屋 ヌリタシ



実験する本屋ヌリタシを夫婦で運営するヌリ平さんとヌリ美さん。

現在ヌリ平さんは出版社に勤務し、ヌリ美さんはフリーのデザイナーとして働きながら、お店を開いています。そんなキニナルお二人にお話を聞いてみました。



Q どのように本を選んでいきますか?

A 生き方や働き方に関する本を意識して集めてはいます。学生の時や新卒の時は、サラリーマンだけが選択肢なのかなと思っていましたが、全然そんなことはありませんでした。そういう固定の考えから抜け出せるような本、つまりいろんな人の生き方や働き方が書かれている本をベースに選ぶことが多いですね。あなたの今の生き方が全てではないかもしれない、という選択肢が本屋にはあると思ってるので、そういう日々の生活の中の悩みとか息苦しさ、なんとなく言語化できないけどモヤモヤ

もともと本屋が好きだったヌリ平さん。会社に勤めつつ、老後に自分のお店を持ちたいという思いを漠然と抱いていたそうです。その気持ちに変化が生まれたのは、コロナ禍の時でした。コロナ禍でも給料は変わらず支払われていることにありがたさを感じていたヌリ平さん。しかし、周りにいる会社の人たちは給料が低いことを嘆いており、価値観のズレを感じます。安定したところにいるが故の文句ばかりになってしまっている生き方と、自分で選んでもがいている生き方を比較した時、自分も小商いをする人たちの生き方のほうが性に合っているかもしれない、と思ったそうです。そこで仕事をしながら、基本的に週末だけまずやってみようということで、ヌリタシは始まりました。

本屋の可能性

やしている時に読んで欲しい本を選んでいかな、とは思っています。



テレビだと情報の選択肢が画面にしかなくて。テレビが言っていることをもう浴びるしかない。それはスマホやウェブ情報もそうだなって思っています。ウェブのほうが圧倒的に選択肢は多いのですが、それは自分が今まで聴いていた曲や選んでいた商品等の系統を計算されて、「こういうの好きだろ」とって与えられているような気がしています。本屋は、何を見るかはその人次第という、自分が能動的に行動を起こせる余地があるというか、自分の興味や関心、知りたい欲求について能動的になれるんじゃないかなと思います。本屋に来たら、表紙を見ているだけでも気づきが絶対あると思っていて。僕はみんなが全員本を読むべきみたいなことは言いたくない。興味のあるものに気付けるだけでも、それだけで十分な気がしています。どちらかというと、表紙を見て何か気づいたかとも思っています。帰ってくれたらそれでいいと思います。

学生記者の声



岩井 優月(いわい ゆづき)
文学部1回生
出身校: 奈良県立奈良高等学校(奈良県)

取材を通して感じたのは、本屋はもっと気軽に立ち寄れる場所だということです。個人書店だと緊張してしまう、という方もいるかもしれませんが。本屋に限らず、初めてのお店や経験は緊張します。私も今回初めての取材と記事の執筆でドキドキしました。しかし、一歩踏み出したその先には見たことのない景色が広がっているのだと、実感することができました。この記事を読んで、本と本屋に興味を持ってくだされば幸いです。

ブレながら本屋をする
世の中にはカッコいい人がいっぱいいるじゃないですか。僕たちはそうじゃないし、無理に背伸びしてもできないので、だったら反対に徹底的にかっこ悪いことをしたいなと思っていて、ブレたいというか。「やるからにはこれくらいのクオリティのものをやらないと」というのがハードルになってできないのであれば、僕たちをみて、別にやれるやんって思ってもらえたらいいなって。ブレてもいいんじゃないって思える場でありたいですね。

佐保会 各支部リレー便り 全国47都道府県で活動



北海道支部 前支部長 大場 靖子

(昭和56(1981)年 文学部国文学科 卒業、昭和58(1983)年 文学研究科国文学専攻 修了)

北海道支部は現在会員65名です。2024年6月にコロナの流行を経て、6年ぶりに札幌で集まりを開きました。18人の参加がありましたが、その中で北海道出身者は1人だったことが、この支部の特徴かもしれません。会員やご家族の仕事で北海道に来た人が多いのです。私も心細い中、函館地区の方々が迎えてくださった時の嬉しさを思い出します。

北海道の特徴としても一つ挙げられるのが、支部の広さです。札幌・函館、札幌・釧路間が特急列車でそれぞれ4時間ほどかかります。なかなか集まれないのが現状です。それでこれまでずっと札幌地区の方が中心となって運営してきましたが、6年前、いろいろな人が関わりを持てるようにと地区別の輪番制になりました。これまで「道東(帯広・釧路)」「北広島・恵庭」「道南(函館)」「札幌市南区・西区」と4巡しました。それぞれ会員の減少や高齢化といった問題を抱えています。私自身も地区3人で引き継げるかと心配しましたが、輪番制にならなければ知り合えなかった方たちと繋がりが持てたことは幸せでした。

6月の集まりの時にアンケートをしました。北海道の良いところとして、「景色が美しく食べ物が美味しい」「人々が率直で温かく受け入れてくれる」少々困る点としては「雪道を歩くこと、運転すること」「実家が遠い」等が挙げられました。

実家が遠いため、初めての子育てや親の介護で苦労した会員も多いですが、北海道の人々は気さくで親切な方が多く、いろいろな方々に家族のようにお世話になりながら、乗り越えてこられたのだと思います。雪の降る季節は、除雪作業や危険な雪道の運転には苦労しますが、雪が溶けて若葉や花の季節がやってくることの嬉しさと解放感は、北国ならではの喜びです。また、「住めば都」というように、冬の雪景色も美しいのです。旬の魚介類や新鮮な牛乳や野菜が近くのスーパーで手に入り、新しい料理にも挑戦したり、まだまだ観光客気分(?)で北海道を満喫している会員もいます。今回お目にかかった方で家庭文庫を50年やっているという先輩もいらっしゃり、文学部卒で工学部で教えている後輩もあり、北の大地でそれぞれの花を咲かせて暮らしています。

これまでも講演会を実施してきたのですが、これから若い方たちに「今取り組んでいること」を話してもらう会等も考えています。遠く離れた会員も多いのですが、「行ってみよう」という会を現会長・副会長が考えてくれています。LINEのグループもできました。

母校から遠い支部だからこそのつながりを、これからも大切にしていきたいと思っております。



▲ 春の大通公園



▲ こどもたちの雪遊び



▲ 2024年6月の集まり

「なでしこ基金」へのご協力ありがとうございます

皆様方によるなでしこ基金へのご理解のもと、2024年4月1日から9月30日までの間に8,832,405円「古本(リサイクル)募金を含む」のご寄附を賜りました。心から、温かいご支援・ご協力に感謝申し上げます。

「なでしこ基金」へのご寄附に際しましては、本学ホームページより、クレジットカード決済もご利用いただけます。また、「なでしこ基金」では、生前に遺言をして遺贈する旨を明らかにするため、「遺贈寄附」を実施し、3銀行(南都銀行、三井住友銀行、三菱UFJ信託銀行)と協定を結んでいます。

近年の物価・光熱水費・人件費の急激な高騰を受け、本学の財務状況は危機的状況であり、現在、学長が先頭に立って財務状況の改善と機能的・機動的な組織運営に取り組んでいるところです。

本学が引き続き、優秀な女性人材の輩出と社会への貢献の役割を果たし、女子高等教育の拠点として輝き続けられるよう、引き続き、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



なでしこ基金
ホームページは
こちら▶



編集・発行/奈良女子大学広報企画室 中山満子、小川伸彦、吉岡英生、水原啓暁、芝崎学 編集責任者/室長 中山満子
連絡先/奈良女子大学総務課 〒630-8506 奈良市北魚屋東町
Tel 0742(20)3220 Fax 0742(20)3205 E-mail somu02@jimu.nara-wu.ac.jp

「ならじよToday」へのご意見・ご感想を是非お聞かせください。
より良い誌面作成のため皆様の叱咤激励をお待ちしています。(編集部)

■バックナンバーはHPをご覧ください。▶ <https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/today/index.html>

公式X



公式 Instagram

